

— 令和3年度 —

富山市公民館研修会 (前期)

と き 令和3年6月23日(水)

午後1時30分

ところ 富山市婦中ふれあい館



富山市公民館連絡協議会
富山市教育委員会

令和3年度富山市公民館研修会前期開催要項

- 1 趣 旨 豊かな活力ある町づくりを目指す自治公民館の効果的な活動や地域との連携など、地域における社会教育活動の指導者として必要な資質の向上を図る。
- 2 主 催 富山市公民館連絡協議会
富山市教育委員会
- 3 日 時 令和3年6月23日（水）午後1時30分より
- 4 会 場 富山市婦中ふれあい館 ふれあいホール
富山市婦中町砂子田1―1 ☎465-3113
- 5 参加者 市立公民館・自治公民館関係者
- 6 研修課題 公民館が地域づくりに果たす役割について

7 日 程

13:00	受付
13:30	開会の挨拶・市挨拶
13:40	特別講演 (14:40～14:50 休憩)
14:50	事例発表（話題提供）
	協議（意見交換）
15:50	閉会の挨拶
16:00	終了

8 研修会

<司会>市立下タ北部・下タ南部公民館 館長 山本忠久 氏（第12ブロック）

（1）特別講演

- ① 演 題 「戦国越中の覇者・佐々成政と富山」
- ② 講 師 富山市郷土博物館 主査学芸員 萩原大輔 氏

（2）事例発表（話題提供）

- ① 発表者 栄町一丁目公民館 元館長 茶木 武 氏（第2ブロック）
新庄新町公民館 館長 武原 信郎 氏（第3ブロック）
- ② 内 容 自治公民館運営の現状と問題点について
- ③ 協 議 研修内容に基づき意見交換

戦国越中の覇者・佐々成政と富山

萩原 大輔(富山市郷土博物館 主査学芸員)

◆はじめに 佐々成政のイメージ

*成政死後400年以上経った現代人の成政イメージ

戦国時代の越中国主・富山城主

富山の土木インフラを整備したお殿様 … いたち川、佐々堤

織田信長の家臣、前田利家のライバル

秀吉嫌いの急先鋒、「さらさら越え」、鍬崎山の埋蔵金伝説

愛妾早百合を磯部堤で斬殺、悲運の知将

*成政と同時代を生きた人たちの成政イメージ

「武者の覚え」＝ 武士の鑑、武士の中の武士

「戒力」(戒律を守ることによって得られる不思議な力) の持ち主

*近年確認された成政の詠歌から何が分かるのか？

「慕いゆく 姿もわかぬ 黄昏に なおたどりぬる 恋の道かな」

⇒達筆で和歌や茶も嗜む文武両道の名将

現代とは比べものにならぬ評価と知名度

◆第1章 佐々成政と織田信長

*生年未詳の成政が初めて歴史資料に登場するのは、いつか？

永禄4年(1561)5月 軽海の戦い(織田信長 VS 斎藤龍興)

…池田恒興と2人で、敵将・稲葉又右衛門の首を取る活躍

→その後も戦功を重ね、信長直属の親衛隊「黒母衣衆(くろほろしゅう)」筆頭に抜擢

*成政はなぜ信長から重用されたのか？

元亀元年(1570)6月 姉川の戦い(VS 浅井長政・朝倉義景)

…小谷城攻めの前哨戦で殿(しんがり)の大役、鉄砲隊を指揮

天正3年(1575)5月 長篠の戦い(VS 武田勝頼)

…前田利家らとともに「鉄砲奉行」として、武田の騎馬隊を撃破

※鉄砲伝来 1543年、信長の鉄砲隊導入は1560年代後半

⇒信長にとって成政は、その初期から鉄砲隊の指揮を任せられる貴重な存在

*成政が富山へ来るのは、いつか？ それは何のためか？

天正8年(1580)12月頃 上杉景勝軍攻略の切り札として越中入国

→翌9年(1581)1月～2月の間に、信長から越中国主に任じられる

上杉方の拠点(新庄城・小出城・魚津城)を攻撃

◆第2章 佐々成政と豊臣秀吉・徳川家康

*主君信長を失った後の成政はどう動いたのか？

秀吉に対する挑戦① 天正11年(1583)4月「賤ヶ岳の戦い」

【背景】「本能寺の変」(天正10年6月2日)後の織田家中における主導権争い

【構図】羽柴秀吉VS柴田勝家

…成政は、宿敵の上杉景勝が秀吉と結んだことから勝家方につく

【経過】前田利家の裏切りにより、秀吉方の大勝

秀吉、越前北庄城を攻め落とす、勝家とお市(信長妹)夫婦が自害

→その後、勝家に味方した加賀の佐久間盛政の居城・金沢城を占拠

→成政は金沢へ赴き、秀吉と直談判して和睦、越中国主の地位も認められる

秀吉に対する挑戦② 天正12年(1584)3月「小牧・長久手の戦い」

【背景】天正11年8月 秀吉による大坂城の築城

【構図】羽柴秀吉VS織田信雄・徳川家康

…天正12年8月頃 成政、家康からの誘いに応じ、秀吉に反旗を翻す

→9月11日 末森の戦い(成政VS前田利家) 秀吉方の利家軍に惨敗

11月中旬 信雄、単独で秀吉と講和 →家康も人質を提出して停戦

12月5日以降～翌年1月21日頃 「さらさら越え」

※成政はどのような道筋をたどり、家康のいる浜松へ赴いたのか？

候補1：立山ルート ザラ峠・針ノ木峠→大町→松本平

候補2：飛騨ルート 猪谷→飛騨高原→安房峠 or 中尾峠→松本平

候補3：糸魚川ルート 上路越え→糸魚川(根知)→千国街道→松本平

*秀吉への降参 成政は呉羽山の白鳥城で降参したのか？

天正13年8月 秀吉の越中攻め、成政打倒へ7万人の大軍

成政は剃髪し秀吉に降参、新川郡(神通川以東)のみ安堵される

→その代わり、摂津国能勢郡を新たに与えられ、大坂で秀吉の側近くに仕える

*成政はその後どうなったのか？

天正15年(1587)3月1日 九州島津攻めへの参戦

秀吉の脇を固める、「羽柴」の名字、「侍従」という官職を授かる破格の待遇

→九州島津攻めの功により、肥後国(現熊本県)の大名に抜擢

成政の実績・能力への期待 ⇔ 急激に版図を拡大させた秀吉政権の人材難

*成政はなぜ切腹を命じられたのか？

5月末～6月 成政、隈本城を本拠として肥後入国

7月23日までに 肥後の国衆たちが一揆を起こす 「肥後国衆一揆」

10月には、豊前・筑前へ一揆が飛び火

※秀吉は、一揆発生の原因が成政の失政にあると認識
 →秀吉は黒田官兵衛ら大軍を動員し、年内までに肥後国衆一揆を鎮圧
 ⇒一揆を起こした首謀者も、成政もともに死罪を申し付けられる「喧嘩両成敗」
 天正 16 年（1588）閏 5 月 14 日 摂津国尼崎で成政は切腹
 ※イエズス会宣教師ルイス・フロイスによれば、「潔い最期を遂げた武士」

◆おわりに 佐々成政を富山の地域づくりに生かす

- *歴史教育の格好の素材となりうる、「武者の覚え」佐々成政
 信長や秀吉に仕え、家康とも親しかった越中のお殿様
 戦国時代に伝来した鉄砲の部隊を指揮し活躍、キリシタンとの関わり
- *ふるさと学習の素材となりうる、郷土の英雄・佐々成政 ※伝承≠史実
 越中を治めたのは、わずか4年半 富山城主だったのは、さらに短く約3年
 成政が植えた「稲荷神社の墨染桜」（稲荷町）、成政帰依「千歳神社」（千歳町）
 成政勧請「日枝神社」（山王町）、成政の鎮守「鹿島神社」（鹿島町）
 成政がいたち川の治水を祈願した「刀尾神社」（太田南町）
 成政が武運長久を祈願した「加茂神社」（北代） などなど

[主要参考文献]

富山県神社庁編『富山縣神社誌』（富山県神社庁、1983年）
 萩原大輔『武者の覚え 戦国越中の覇者・佐々成政』（北日本新聞社、2016年）



图②

富山城を中心とした勢力図

天正10年(1582)頃



图③

小牧・長久手の戦い 対立関係図

天正12年(1584) 9月頃



図は富山市郷土博物館『富山城ものがたり』（2005年）、『戦国越中の覇者 佐々成政』（2013年）より転載

栄町一丁目公民館の活動



東部校下
栄町一丁目公民館
元館長 茶木 武

1

東部校下の位置



2

東部校下の概要

東部校下は中心市街地の東に近接しており、成田さん分院の門前から望む剣・立山の峰々は四季を通じてその雄姿を楽しませてくれます。

校下のランドマークには、県立中央病院や不二越などがあります。

東部校下人口は、富山市への編入当時（昭和12年4月）には、5,236人でした。宅地化の進展により人口が1万人を超えたこともありましたが、現在では、世帯数4,232世帯、人口8,236人（令和3年3月末）となっています。

東部校下	人口	8,236人	男	4,069人	女	4,167人	世帯	4,232世帯
栄町一丁目	人口	202人	男	92人	女	110人	世帯	92世帯

（令和3年3月末現在）

3

東部校下の特徴（その1）

成田山富山分院富栄寺は、交通安全祈願などで多くの人からの信仰を集めています。



4

東部校下の特徴（その2）

富山県で唯一の県立総合病院である中央病院は、基幹・中核病院として県民の健康を守り続けています。



5

東部校下の特徴（その3）

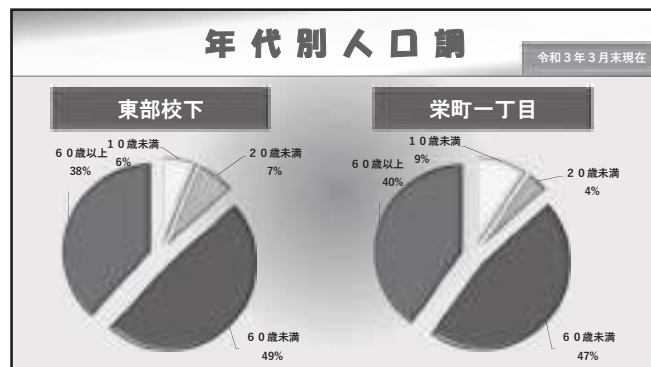
富山県を代表する企業「不二越 富山事業所」が立地していることから、社宅・不二越病院など関係施設が多い。



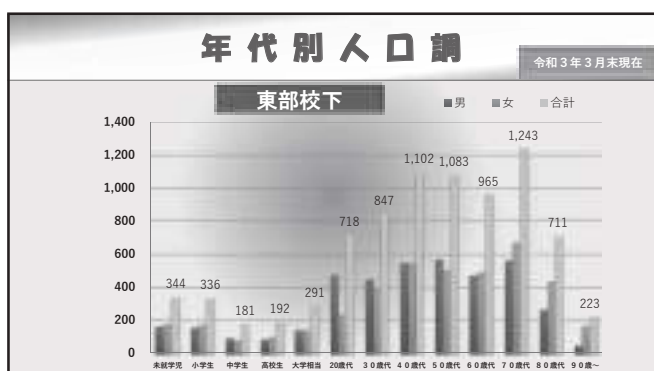
6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18

栄町一丁目公民館の現状



所在地 栄町1丁目9番4号
 建築年 平成15年3月(建替)
 構造 木造平屋建

19

公民館の主な活動

行事名	内容と現状	月日	参加人数
子供神輿	現在、神輿の担ぎ手不足！	9月	約40名
文化祭	鍋祭り、そば打ち、個人作品展	11月	約100名
防災会	AEDの使い方など	年1回	約15名
町内レクリエーション、ボウリング大会	町内の住民のコミュニケーションの場	年2回	延べ40名
公園清掃・花壇作り	栄町公園の清掃、花の植付け、水やり(随時)	年7回	延べ290名

20

公民館利用状況

行事名	内容	月日	参加人数
東吟会	詩吟練習会	年2回	約10名
女子会	町内の婦人の会	年4回	約30名
児童クラブ	クリスマス会、映画鑑賞会、ラジオ体操	年2回	約200名
栄和会(長寿会)	定例会、総会等	年10回	約50名
町内会及びその他団体	定例会、総会、打合せ会場等として使用	不定期	延べ456名

21

文化祭(栄町一丁目主催)



鍋祭り

そば打ち



22

子供神輿



新年会

23

町内ボウリング大会



24



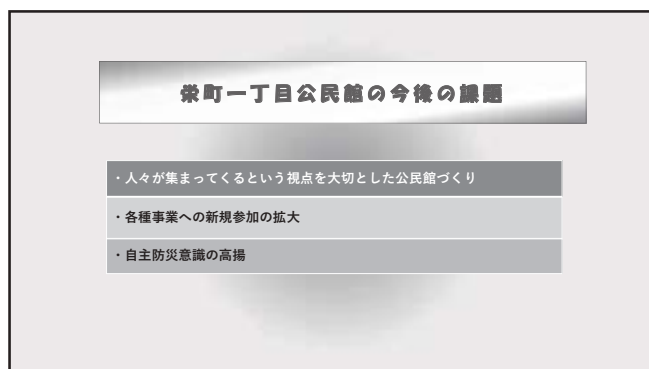
25



26



27



28



29

地域の拠点となる公民館を目指して

新 庄 新 町 公 民 館
館長 武 原 信 郎

1. 新庄新町地区について

新庄校下は、中心市街地から東側に位置し、西側には稲荷公園、南側には富山市民プール・城東ふれあい公園がある緑豊かな地域であり、旧家、神社、寺や新庄城址などの旧町並みと新興住宅地が共存する校下です。

新庄新町地区は、校下のほぼ真ん中に位置し、地区内には41号線が走り、地鉄の東新庄駅があります。昭和50年代富山市で一番の高層マンション「スカイタウン富山」（現在は大型スーパー）が地区にありました。

◆新庄新町地区および公民館の位置◆



2. 新庄新町自治公民館の概要

- (1) 所在地 富山市新庄町3丁目3番83号
富山地方鉄道「東新庄町駅」南側 神明社地内
- (2) 建築年月 昭和59年10月
- (3) 構造 木造瓦葺平屋建
- (4) 延床面積 129㎡
- (5) 地域世帯数 281世帯（約600人）



公民館外観



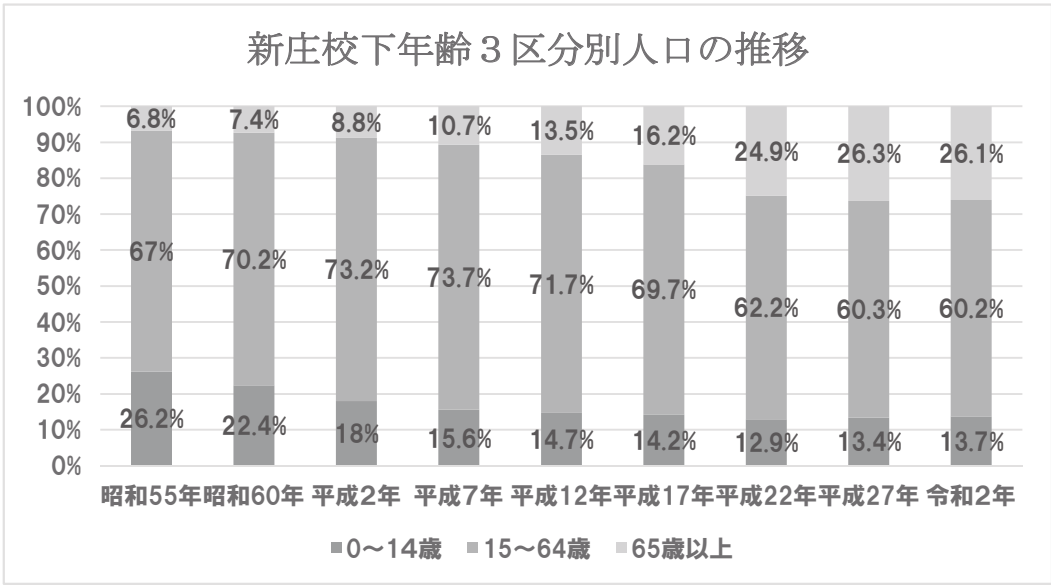
神明社

3. 新庄新町町内の概要

古い文献には「元新庄新町村」の記述が見られ、中古商売を生業とする人が集まって町を形成しました。徳川幕府時代将軍の代替りには巡検使の来見があり、町内にはその通り道がありました。元禄9年には馬次宿と定められました。（新庄町史より）

明治、大正、昭和にかけ旧北陸街道沿いの商店街や地鉄東新庄駅前を中心に栄え、戦後は住宅地として開発が進み現在に至ります。戦後すぐに移り住んだ世代が90代、2代目が70代、その子供の世代が40代となかなか若い世代の転入がありません。平成15年前後に新しい住宅地ができ、一時子どもが増えた時期もありましたが、富山市の多くの地区と同じく高齢化が進んでいます。

4. 新庄校下の年齢別人口の推移



校下全体で見ると、平成27年前後に新興住宅地（経堂新町）ができ、子育て世代の転入があり高齢化率は横ばいですが新庄新町町内は、さらに高齢化が進んでいます。

5. 新庄新町公民館の利用状況（のべ人数） （単位：人）

	主催事業	サークル活動	町内会の行事	町内会・団体との共同行事	伝統行事	その他	合計
平成30年度	60	409	565	915	265	210	2,424
令和元年度	70	1,160	737	1,067	287	387	3,708
令和2年度	30	275	397	146	138	213	1,199

- ・主催事業：夏休み親子体験教室、バーベキュー
- ・サークル：詩吟教室、手芸ふれあいの会、吹き矢の会
- ・町内会事業：町内役員会、長寿会、町内青壮年部、各種団体会議、防災教室
- ・神明社宮行事：春祭り、田祭り、秋祭り、新年厄払い

6. 神社境内に建つ公民館、宮行事との関連が深い(特徴的な行事)

神明社は、創建は天授2年(1376)新庄城主三輪飛騨守や轡田備後守が崇敬しました。また加賀藩主前田吉徳の鷹狩りの際、近くの荒川に橋を架することを許されたことに因んで「橋宮」と名付けられました。(新庄町史より)

6月16日の例祭は「田まつり」と呼ばれ、当日は万灯(あんどん)に、氏子住民や近くの保育所の園児らの絵や願い事を描き込み、参道の両側に吊り並べられ、夜祭りに彩りが加わります。

町内役員、児童クラブが中心になり、5月後半から前年の万灯を水洗いして絵を剥がし、新たに集まった絵を糊で貼り付ける作業を行います。



7. 20年続く夏休み親子体験教室(公民館主催事業)

子どもたちの夏休みの自由研究対策として始まった児童クラブとの共催事業である、「夏休み親子体験教室」は今年で20年を数えます。町内在住の中学の理科の先生による化学実験教室、ダンス教室、染色家による草木染教室、ミニ万灯作り(昨年度)など、毎年趣向を凝らした教室を開催し貴重な三世代交流の場となっています。

午前中に「親子体験教室」、お昼から「住民バーベキュー大会」が行われ、町内住民70人が1日公民館で楽しいひと時を過ごします。(昨年はコロナ感染予防のため、バーベキュー大会は中止になりました)



昨年の「ミニ万灯づくり」



コロナ以前のバーベキュー大会の様子

8. 長寿会の活動拠点として

高齢化の進む町内ですが、団塊の世代が75歳になり、長寿会の会員も増え活発に活動しています。公民館のサークル活動はすべて長寿会が主体になっていますが、その中で吹き矢の会はコロナ禍で活動を見合わせ、代わりに「町内美化活動」など、地域の役に立つ活動を増やしています。今後も、公民館を拠点としてお年寄りの引きこもり防止などに力を注いでいきたいと思っています。



9. 終わりに

月一回の町内の班長会では、公民館の積極的な利用を呼び掛けています。当町内は少子高齢化が最大の課題と言えます。今後も活発に活動を行っている長寿会と協力しながら、お年寄りの孤立化、引きこもり防止のため公民館が拠点となる活動を積極的に行っていきたいと思います。夏休みの子供体験教室は、20年も続く恒例行事。貴重な世代間交流の場として、今後も長く続けられるよう協力したいです。

また、この冬の豪雪では、融雪が完備されていない町内において車の立ち往生や、一人暮らしのお年寄り宅の除雪が大きな問題となりました。日ごろから災害の時に、孤立する住民がいないように、住民同士が気軽に集い合う場を提供することが、公民館の一番の役割と考えています。今後もこのような地域の拠点となれるよう努めていきたいと思っています。

【出典】

- ・「新庄町史」新庄校下自治振興会編（昭和50年刊）
- ・「続新庄町史」新庄校下自治振興会編（平成3年刊）
- ・「続々新庄町史」新庄校下ふるさとづくり推進協議会・新庄校下自治振興会編（平成22年刊）
- ・「新庄まちなかぶらり散歩」新庄校下ふるさとづくり推進協議会・新庄校下自治振興会編（平成25年刊）

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.